

カトリック河原町教会だより

2021年3・4月

教皇フランシスコ 2021年3月14日『愛のよろこび』家庭年に向けた呼びかけ（抜粋）

親愛なる兄弟姉妹の皆さん、こんにちは。

四旬節第四主日の今日のミサの典礼は、「神の民よ、喜べ……」（イザヤ 66・10 参照）という呼びかけで始まります。どうして喜ぶのでしょうか。四旬節の最中に、なぜそのように喜ぶのでしょうか。「神は、その独り子をお与えになったほどに、世を愛された。独り子を信じる者が一人も滅びないで、永遠のいのちを得るためである」（ヨハネ 3・16）。この喜びの知らせは、キリスト者の信仰の核心です。神の愛は、弱く罪深い人間に独り子をお与えになることにより頂点に達しました。神はわたしたちすべてに、御子をお与えになったのです。

この箇所は、同じ福音箇所に記載されている、ある夜に交わされたイエスとニコデモの間の会話の一部です（ヨハネ 3・14-21 参照）。ニコデモは、他のイスラエルの人々と同じように、世界を力で裁くことのできる力強いメシアを待ち望んでいました。しかし、イエスは三つの姿でご自分を示すことにより、その期待を裏切ります。十字架に上げられた人の子、救済のために世に遣わされた神の子、そして真理に従う者と嘘に従う者を見分ける光です。この三つの姿について考えましょう。人の子、神の子、そして光です。

最初に、イエスは人の子としてご自分を示されます（14-15 節）。イエスは十字架の上にかかげられ、イエスを信じる人は罪から救われ、いのちを得るのです。次に神の子の姿です（16-18 節参照）。神は御子を「お与えになる」ほどに、人間を愛しておられます。実際、神が御子をこの世にお遣わしになったのは、この世界をとがめるためではなく、イエスによって世界が救われるためです。三番目に、イエスは「光」という名でご自身を称されます（19-21 節参照）。福音はこう告げています。「光が世に来たのに、人々はその行いが悪いので、光よりも闇の方を好んだ。それが、もう裁きになっている」（19 節）。この世にイエスが来られたことにより一つの選択が課せられます。闇を選ぶ人は、有罪の裁きを受けます。光を選ぶ人は、救いの裁きを受けます。裁きはつねに、各々の自由な選択の結果としてくださいます。悪い行いをする人は闇を求めます。悪はいつもひそかに隠れています。真理を行う人、つまり善を行う人は、光の当たるところに来ます。そこではいのちの道が照らしされます。謙虚にゆるしを乞うなら、神は必ずゆるしをくださることを、どうか忘れないでください。

教会の様子(インスタグラムより)



時を超える普通の言葉 ～俳句と静物画と『ヘブライ人への手紙』～

洛東ブロック担当司祭 菅原友明

「古池や蛙飛びこむ水の音」という芭蕉の句を英訳してしまうと、たとえば、*The ancient pond / A frog leaps in / The sound of the water.* (ドナルド・キーン訳) などとなって、これでは原文の味わいが台無しだとか言われる場合もありますが、でも、芭蕉は「カエルが池に飛び込んだ」ということに永遠を見いだしているのだから、さらに普通に *A frog jumped into the pond.* (グーグル翻訳) だっていいのかもしれない。

人は静物画を眺めて、何の変哲もない鍋や野菜をこれほど芸術的に描く画家に感嘆しますが、プルーストはそんなふうにシャルダンの静物画を見て感嘆している友人に、むしろありふれた台所に輝き出している永遠に気づくべきなのだと語ります。「配膳室とか、台所とか、食器棚とかを描いた彼の絵があなたに与えてくるよろこびは、現場でとらえられ、瞬間から解き放たれ、深められ、永遠化されたものなんだ。」(『プルースト評論選Ⅱ』ちくま文庫版)

2月21日に伏見教会で行われた洛東ブロック黙想会で、中川神父様が紹介してくださったある研究機関が行った調査のお話も思い出します。それによると、現代人はいつも過去や未来のことばかり考えていて、今を生きることができていないのだそうです。

私達が憧れている永遠の命は、どこか遠くにあるのではなくて、水に飛び込むカエルとか、台所に残された野菜とか、今、ここのあるありふれた現実からあふれ出している命です。今、どこかで、この「河原町教会だより」を手を持って、この文章を読んでいる、周りに何かがあって、何かの音が聞こえて、体が疲れていたりとか、心に何か不安があったり…という、これ！これ以外のどこにも永遠の命はありません。キリストと出会うのは「そのうち、どこか」ではなくて「今、ここ」です。

新約きっての美しいギリシア語と讃えられる『ヘブライ人への手紙』ですが、語られているのは、…聖所には燭台、机、供え物のパンが置かれていました。聖所の奥には垂れ幕があって、その後ろには至聖所がありました。そこには金の香壇と、金の契約の箱があって…(9章1～4節参照)。これはあたかも、…河原町教会の地下には受付室と集会室があります。集会室には可動式の長机とイスが置いてあって…みたいに、普通の言葉で、普通に情景が描写されています。このような普通の言葉は説教などとは違って何も押しつけてこないからこそ、飾らない「今、ここ」を指し示すことができ、だから、そっくりそのまま読む人の心に、永遠の命への扉を開いてくれます。



シャルダン 鍋と卵のある静物 (1734年)

洛東ブロック信徒養成講座「ヘブライ人への手紙を学ぶ」
第1土曜日 19:10～20:00 開講中

洛東ブロック四旬節合同黙想会

『私は、あなたたちの苦しみを、見、叫びを聞いた。』(出エジプト記 3.7)



2021年2月21日(日)伏見教会聖堂にて、洛東ブロック四旬節合同黙想会が開催されました。指導は中川博道神父(カルメル会)で、9:45~10:45 講話と黙想、11:00~聖体顕示と赦しの秘跡が行われました。

はじめに

四旬節は足を止めて、森の中で鳥の声を聞くように主の問いかけに耳を澄ましましょう。私たちの心の中は、私たちがたてる日常の音でいっぱいです。

「苦境からの脱出」

聖書の主要なテーマは、苦境からの脱出です。エジプトの奴隷状態の中で、主に叫びをあげた民と、その苦しみに応えて脱出を導き同伴する神との契約の歴史が記されています。「過ぎ越しの祭り」は、この主に伴われてエジプトから脱出できたことへの感謝の記念です。カトリック教会が捧げるミサは、この「過ぎ越し

の祭り」を元に成り立っています。毎週日曜日捧げるミサの中で、イエスに伴われて苦境から幸せな約束の地へ入った出来事を確認します。

「約束の地、向こう岸に渡ろう」

現在コロナパンデミックというすべての人々を巻き込んだ恐怖が蔓延しています。しかし、この事態が収束すればすべてがうまくいくと思うのは間違いです。コロナ禍に翻弄され恐れと不安におののく今、キリストは「新しい生き方への脱出」を呼び掛けておられます。キリスト者の原点はイエスのように人を愛し、イエスのように何も握りしめず、自らを分かち合いながら世界・社会に関わり、イエスのように御父に聞きながら生きることです。

「灰の水曜日から始まる復活の道」

あなたはちりであり、ちりに帰って行くのです。いつか迎える「死」で、この世のものすべては、ちりになります。握りしめている物、心を満たそうと追い求めているものはすべて消えてしまいます。すべてが灰に帰してもなお残るのが本当の自分です。神はあなたを愛し、すべてを与え、共に生きてくださることを福音は伝えています。今コロナ禍を生きることは苦しみを耐えるだけではなく、回心して神が示された生き方に立ち返る時です。

「目を覚まして祈る」

キリスト者は目を覚まして主の帰りを待ちます。教皇フランシスコは『ラウダート・シ』の中で、日常における心のあり方の大切さを指摘しておられます。「落ち着いた注意深さをもって生活しようとする姿勢、展開を予想したりせずに全身全霊をもって相手と向き合おうとする姿勢、懸命に生きるよう神からいただいた贈り物として一瞬一瞬を受け止める姿勢です。」人に見てもらおうとする偽善者のようではなく、隣人愛をもって分かち合い、神を探し求め日々祈ることが大切です。

まとめ

「苦境」を、乗り越えるべき試練として受けとめるかどうかで未来が決まります。教皇フランシスコ呼びかけておられます。「パンデミックの危機から脱した後、前より良くなるか悪くなるかです。これがわたしたちの選択です。考えてみようではありませんか。」



◇2021年4月～6月までの主な予定◇(予定は変更になる場合があります)

月	日	曜日	行事予定
4	1	木	聖木曜日(主の晩さん) 19:00
	2	金	聖金曜日(主の受難)(大斎・小斎) 19:00 聖地のための献金
	3	土	復活の主日徹夜祭 19:00
	4	日	復活の主日日中 7:00、10:30、14:00(英語)
	11	日	[復活節第2主日](神のいつくしみの主日) 子ども初聖体 10:30
	18	日	[復活節第3主日]
	24	土	洛東ブロック会議 14:00(桃山教会・オンライン)
5	25	日	[復活節第4主日] 世界召命祈願の日
	2	日	[復活節第5主日]
	9	日	[復活節第6主日] 世界広報の日(献金)
	16	日	主の昇天(復活節第7週)
	23	日	聖霊降臨の主日
	30	日	三位一体の主日(年間第9週) 洛東ブロック合同堅信式 14:00
	6	日	キリストの聖体
6	11	金	イエスのみ心
	13	日	[年間第11主日]
	20	日	[年間第12主日]
	24	木	洗礼者聖ヨハネの誕生
	27	日	[年間第13主日] 聖ペトロ使徒座への献金 チェジュ教区交流祈願(大塚司教霊名のお祝い)ミサ 10:30
29	火	聖ペトロ 聖パウロ使徒	

お知らせ (敬称略)

◆転入 ようこそ 河原町教会へ

- 2021.1.29 アシジのフランシスコ 尾崎 哲也
 2021.1.29 マリア・クララ・モニカ 尾崎 とう子
 2021.2.13 アナスタシア・マルガレテ・ソフィア 井上 薫
 2021.2.19 ベルナルド 遠藤 博文
 2021.3.11 マリア・ローザ・フローラ 高橋 絹子

◆転出 どうぞお元気で

- 2021.2.16 マリオ・ミカエル 並川 恵三

◆帰天 主よ、永遠の安息をお与えください

- 2021.1.4 マリア 伊藤 明子
 2021.2.26 マリア・ベルナデッタ 大江 みゆき

**公開ミサは入場人数を制限して
3月13日(土)より再開しています**

ミサの時間

土曜日 9:00 18:30

日曜日 7:00 10:30

12:00(英語・第2第4のみ)

(入場人数を制限しています)

最新の情報はウェブサイトでお知らせいたします。

講座の時間(休講の日も有り)

これから洗礼を受けられる方向け

洗礼準備講座

土曜日 11:00(菅原神父)

一般向け

キリスト教入門講座

金曜日 19:00(瀧野神父)

キリスト教入門講座

土曜日 16:00(Sr.テッシー)
(5月8日開講予定)

主に信徒向け

読書会

『いのちへのまなざし』読書会
水曜日 10:00(瀧野神父)

聖書の集い

金曜日 11:00(Sr.ロサ)

聖書を読む会

土曜日 11:00(Sr.ロサ)

「ヘブライ人への手紙」を読む
毎月第1土曜日 19:10(菅原神父)

みんなの集い

土曜日 15:00(菅原神父)

(4月10日開講予定)

「これから洗礼を受けられる方向け」は事務室か
rakuto.nyumon.class@gmail.com
まで事前にご相談ください。

カトリック河原町教会だより 2021.3・4 カトリック河原町教会広報部発行

〒604-8006 京都市中京区河原町三条上る下丸屋町423 発行責任者:洛東ブロック司牧チーム

TEL:075-231-4785 FAX:075-211-8021 URL:<http://CatholicKawaramachi.Kyoto>